

富津市創生会議・富津市市民委員会合同会議 会議録（要旨）

1 会議の名称	第7回富津市創生会議・第8回富津市市民委員会合同会議
2 開催日時	平成28年2月6日（土） 午後1時30分～午後3時15分
3 開催場所	富津市役所5階 502・503・504会議室
4 審議等事項	富津市人口ビジョン2040案及び富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略案について
5 出席者名	富津市創生会議委員（12名） 浅野 隆、稲村 重夫、岩沢 宏幸、小泉 敏、鈴木 裕士、滝田 一馬、武次 治幸、中澤 道男、西田 美和子、早見 秀一、平野 都、森田 泰彰 富津市市民委員会委員（29名） 富津市市民委員会各分科会コーディネーター（3名） 一般社団法人構想日本 伊藤 伸、逗子市役所秘書広報課長 石井 聡、小田原市教育委員会教育部副部長 露木 幹也 事務局 市長 佐久間 清治、副市長 高橋 恭市、 総務部長 小泉 義行、総務部参事 池本 幸司 企画課長 重城 祐、 企画課企画係長 中山 淳子、企画課主任主事 國吉 功二 企画課主任主事 赤井 聖、企画課主事 牧野 圭吾 企画課兼務職員 高橋 亮介、荒木 宏仁、藤平 隆太郎、 後藤 寿大、一般社団法人構想日本 原田 将大
6 公開又は非公開の別	公開・一部公開・非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当（理由）
8 傍聴人数	5人（定員 20人）
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

「第7回富津市創生会議・第8回富津市市民委員会合同会議」会議録

発言者	発言内容
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 富津市人口ビジョン2040案及び富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略案について</p> <p>(資料1～6の説明)</p>
森田委員	<p>資料2の20ページ、施策2（新規就農者、農業経営の法人化等多様な担い手の育成）の事業「地域の実情に応じた規制緩和」は、今まで農業に対して規制緩和をしていなかったもので、新規事業として掲載してもよいのでは。</p>
事務局	<p>今まで、地域の実情に応じた規制緩和をやってこなかったわけではないため、今後拡大をしていくということは事実であるが、新規の扱いにはしていない。</p> <p>例えば、市街化区域における農地の下限面積は、原則5,000㎡のところ、地区によっては4,000㎡に設定し規制を緩和しているところもある。</p>
森田委員	<p>それは承知しているが、かなり昔の話であり、新規としたほうが、これからアピールするにあたってよいのでは。少しやったことがあるから新規とできない理由があるのか。事業実施に消極的な感じがする。</p>
事務局	<p>考え方として、過去に取り組んだ実績があるため、新規扱いにはしていないが、実施しないということではなく、施策2で</p>

市民委員	<p>取り組む事業として、現時点で総合戦略に明記している。ここでは、事実そのままということで新規の文言は省かせていただいたが、ご理解いただきたい。</p> <p>資料2の16ページに出産、子育てに関する課題が記載されているが、具体的な対策をいつどのようにやるのか。また、パブリックコメントでの意見に対する市の考え方の多くが「検討する・参考にする」という回答であるが、意見をもとに決めた取組はあるか。</p>
事務局	<p>本来であれば、今の段階である程度具体的な対策を提示できれば良いが、現段階では施策実現のため取り組む事業を総合戦略に提示し、より具体的な内容については、実行計画を作成したうえで進めていく考えである。</p> <p>また、「参考にする」と回答したものは、すでに施策として記載されているものに対する意見であり、具体的な取組については総合戦略の主な事業として記載している。</p>
滝田委員	<p>資料2の14ページ、施策3の「管理不全空き家等の適正管理の促進」とはどういったものか。また、13ページの地域・民間ができることの、「空き家マップを作り、地域でどんな活用をするか話し合う」との内容の違いは。</p>
事務局	<p>資料2の14ページの行政の施策については、全国的に空き家の問題が叫ばれている中、行政として空き家情報の収集やその一元化に取り組む必要があると考え、新規の施策として記載した。空き家の管理は、所有者の意向により利活用できるものと、行政が取り壊す必要のある危険空き家それぞれに対応していく。</p>

	<p>一方、資料2の13ページの地域・民間ができることについては、行政の施策に含まれるかもしれないが、地域の中でどのような空き家がどこにあるかを把握し、行政の全体的な取組に対してもう少し範囲を絞り、地域として空き家をどうするか考えてもらう必要があることから、地域の取組として記載した。</p>
滝田委員	<p>資料2の13ページの施策1にあるような、安価な土地であるとか半農半Xができる空き家があるなど、地域レベルでしかわからないようなマップ形式の情報を行政に吸い上げてもらえる仕組みがあると、この施策が効果的に機能すると思う。</p>
質疑	<p>質問なし。</p>
事務局	<p>ここで、市民委員会座長及びコーディネーターからコメントをもらいたい。</p>
第一分科会 座長	<p>普段はメーカーで研究をしているが、一つは下準備をする、二つ目はいいアプローチをすることによってよい成果が出る。今回の市民委員会から提出した報告書はいい下準備となっているので、これを活かしたアプローチを期待したい。</p>
第一分科会 コーディネーター	<p>コーディネーター及び全体で関わっていく中で、総合戦略の質問・意見にもあったように、細かいところを見ていくと今までの議論と違うところや、書いてあっても議論の趣旨を感じているのかなど色々あると思うが、後は実施する際にその時の思いや魂を反映できたかだと思う。来年度以降議論したことがどのように進むか、それをチェックしていただきたい。</p> <p>また、地域・民間などでできることは、やらなくてもいいと捉えられてしまう。それでも各分科会で検討し、行政に頼らず</p>

に自分たちでできることを掲載したわけであり、市役所に頼むだけではなく、人数関係なくできることはあると思う。

事務局の皆さんにとっては、計画を作って終わりではなくこれからが本当の意味で大変になると思う。少なくとも、市民委員会の皆さんが議論したことは貴重な宝になると思うので、書いていないからやらないというような答え方は避けていただきたい。今までは内部の資料だったものを、市民の皆さんにも見てもらっている。そのため、広報紙に概要を出すだけでなく、例えばコンビニやイオンなどで目に触れることを考えていただきたい。発信する情報の具体化が一番重要なことなので、今後もお付き合いしていただければと思う。

事務局

承知した。

第二分科会
コーディネーター

第二分科会では「移住しやすい環境づくり」の議論を行った。今日で会議は終わりだとしても、まちの魅力を高め、どのように盛り上げるかはこれからがスタート。役所はこの戦略に基づいて仕事をするかもしれないが、関わった市民委員はいろんな意見がどうなるのか、一人ひとりができることは何か、一人でも多くの市民が考えていけば総合戦略は成功するのではないかと思う。今回は過去最高のパブリックコメントになったということもあるので、子育ての実行計画に対してパブリックコメントで意見を書くことも、まちの魅力を高めるために市民ができることだと思う。また、自治会で今までと違うお祭りをする、近くの共働きのお子さんを預かるだけでも子育て環境を変えることになる。

もう一つ、今日は保田小学校を訪問した。今までは富津市の範囲が良くわかっていなかったが、富津のぎりぎり外で賑わっている例がある。保田小学校は多くのお客さんがいたが、富津

<p>第三分科会 コーディネーター</p>	<p>市産のお土産をたくさん見かけ、ポテンシャルがあるのにもったいないと痛感した。私は逗子市住まいで隣は観光客が2,000万人訪れる鎌倉市。小町通りにある商品はここ最近のものも多く、必ずしも伝統的というわけではない。しかし、富津の醤油・海苔・お酒はすごく伝統があるものだと思うので、どうやって売っていくかはすごく大事だと思う。</p> <p>いろいろな意見がある中で、子育て世代に公園をプロデュースしてもらって子育て世代が集まりやすい環境にしようという意見があったが、今回の戦略では具体的な事業は掲載しにくいと思う。市民委員の皆さんには、この後の実行計画に自分たちの意見がどのように反映されるのか見てほしいと思う。</p> <p>行政には、意見として出た「市民ができること」を相談できる場所を作ってほしい。そうすることで市民の力がどんどん大きくなると思う。また、行政は決して勝手に事業を考えて施策を進めるわけではなく、一番に「市民のために何ができるのか、どんな方法がいいのか」を考えている。ところが、実際に事業をやろうとすると絶対に賛成と反対の人がいて、行政が説明会を開くと、大体の場合反対派が大きな声を上げるので、市がやるのが悪いようになってしまう。本来は行政と市民が対決する図式ではないので、双方の対話の場が必要。そういう場があったらぜひ賛成の人も反対の人も意思表示をし、市民同士の対話をしてほしいと思う。</p> <p>この総合戦略ができて、今後富津市がますます発展することを私も望んでいる。また、出生率が1.06という状況は本当に危機的だと私も思うので、是非がんばってほしい。</p>
<p>第四分科会 座長</p>	<p>分科会では、さまざまな職業の人や中学生の意見など、自分と全く違う見方を知ることができ、私自身大きなプラスとなっ</p>

<p>事務局</p>	<p>た。総合戦略ができてこれから実行する流れになる中で、新聞やテレビで全国のいろいろな自治体の地方再生の取組を見ると、斬新であつと驚くようなものがあり、先を越されているなど思うことがある。やはり観光・移住・婚活と非常に重要な部分を占めるので、富津という名前を県内・全国に広めるような思い切った具体的な取組を計画してもらえればと思うし、そのときは協力したい。</p> <p>本日欠席の第四分科会のコーディネーターからコメントがあり、「第四分科会は大変熱い志を持っている方が多くいたので、それを受けて独自に提言書という形で取りまとめました。第四分科会でできたことを誇りに思います。また、これからの戦略について、市民委員会の皆様には実行の段階がきちんと進むか注目してほしい」とのこと。</p>
<p>武次会長</p>	<p>創生会議も市民委員会も数回の熱心な議論ありがとうございました。私は皆さんのいろいろな考えを聞いて、一人ひとりが持っているいろいろな思いを感じた。富津市は財政再建から話が始まったので悪いイメージもあろうかと思うが、むしろたくさんあるいいところを伸ばすことが大事だと思う。この計画書はあくまで実行することが目的。今からスタートということで、市民委員会・創生会議の皆さんには、これからもこの思いを持ってもらい、より良い富津市にしていきたい。市が良くなれば皆さんが良くなるし、皆さんが良くなれば市が良くなる。</p> <p>最後に、市職員の皆さんには夜遅くや休みの日の従事、ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>最後に市長からごあいさつ申し上げます。</p>

<p>市長</p>	<p>創生会議・市民委員会合同会議の閉会にあたり、お礼申し上げます。本日はもとよりこれまでの会議で皆さん方には活発な議論提言をしていただきました。この戦略の施策を実現するためには、市民・地域・企業それぞれの立場で積極的に参画していただき、市民が幸せを感じられるまちの実現に富津市一丸となって取り組んで参りますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げ、御礼の言葉にさせていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合戦略策定の今後のスケジュールについては、議会に説明して意見をいただいた後、2月中に内容を確定し、3月中にカラー製本したものを皆さんにお渡ししたい。</p>
<p>森田委員</p>	<p>最後に一つ。地方創生についてはすでに動き出していて、冷凍のフルーツを全国に出荷している千疋屋に納品している会社が、元関豊小学校などを使いながら富津に生産拠点を置きたいとのこと。廃校利用や雇用の確保・農産物の6次化の全てが入っており、やったことが少しは動き出している。企業の情報は今日何十部か刷ってあり、また、「ガイアの夜明け」でも紹介されているので、地方創生のPRには面白いのではないかと思う。</p>
<p>浅野委員</p>	<p>今の話の補足として、廃校の活用事例について、自然体験をさせる森の学校や地元の食材をフルに使った民間の宿泊施設、美術館、水産・食品加工施設などいろんな廃校を利用した民間の事業者が全国にある。一年前に廃校になった元関豊小学校は良く手が行き届いているが寂しい光景になっており、長年に渡って続き、卒業生も大勢いて愛着があるこの学校がこれでいいのかと思うところはある。学校の歴史を受け止めて継承し未来につなげていく場が必要なのではないかと思う。ポイントは</p>

	<p>くつかあり、一つは富津の立地で、県外の会社が進出してくるのは羽田や成田へのアクセス、すなわち流通ルートが確保されていること。あと、この会社は富津に産業を造る。雇用は地元で、若い世代を呼び込むために託児所や保育施設も検討しており、また教育として工場見学もできるとのこと。そして何より、会社の利益だけでなく農産物、水産加工物の販売をし、コミュニティの場として活用したいとのことで、まさにこれが地方創生だと思う。富津市や千葉県の農産物、水産加工物といったブランドを世界に出せるかもしれない。こうしたプロジェクトが大きな可能性を秘めており、波及は大きいと思うので、私はこうした取り組みをサポートしたい。PDCAの中で、立派な総合戦略、すなわちP（計画）はできて、次はD（実行）。批判や評論ばかりではだめで、このdoを誰がやるか考えたとき、市民や我々委員、意欲のある企業、NPOや団体がどんどん出てくると思う。私も主体的に関わりたいので、この計画を皆さんで実行しましょう。</p>
事務局	<p>廃校の跡地利用という具体的な話なので、誤解がないよう、行政として補足説明する。</p>
副市長	<p>私どもは、非公式だがこのお話は承知している。元関豊小学校についてはそれ以外にもいくつかの提案をいただいているのも事実。敷地の借地や校舎建設の交付金の返還といった問題の解決に教育委員会が全力で取り組んでいる。年度明けにはその方向性が見えてくるので、その時に改めて正式に市として民間活力を募集し、公正な判断の中で跡地の利用を決めるということで進めたいと考えているので、ご理解いただきたい。</p>
事務局	<p>改めて以上で合同会議を閉会する。本日はありがとうございました</p>

	<p>した。</p>
--	------------

(終了時刻 午後 3 時 1 5 分)

以上